

令和7〔2025〕年度

学校評価書

大津市立真野中学校

項目		評価の観点 ※網掛けの項目は、大津市共通項目	市教委 学校評価表と の関連	アンケート			自己評価		学校関係者評価	今後の改善 に向けて
				データ 【左】 ① そう思う ② どちらかというと思う ③ どちらかというと思うわない ④ そう思わない 【右】			評価	本年度の取組と分析		
				生徒	保護者	教職員				
1 生徒指導	生徒	先生は、いじめや暴力行為等の問題に対して素早く対応している。	生徒指導体制の充実	全校 	全校 	R7 	A 【R6】 3.75 ↓ 【R7】 3.73	◆いじめ等、生徒指導上の問題に対しては、未然防止・早期発見・早期対応に努め、生徒指導主事、子ども支援コーディネーターが中心となり、毅然とした態度で組織的に対応した。特にいじめに対しては、教員の生徒観察だけでなく、生活ノートの点検、定期的なアンケート、第三者の生徒や保護者からの声を見逃すことなく、初期段階でいじめ対策委員会を開き、個々の生徒に丁寧な指導を行うことができた。 ◆生徒会と連携し、いじめ防止啓発活動(ありがとう週間)に力を入れ、保護者には「いじめ基本方針」のホームページ掲載や「きらり(生徒指導便り)」等の通信を介し、情報発信・連携にも力を注いだ。	A	
	保護者	先生は、いじめや暴力行為等の問題に対して素早く適切に対応している。		3年 	3年 	R6 				
	教職員	いじめや暴力行為等の問題に、素早く、毅然とした態度で対応している。		2年 	2年 	R5 				
2 道徳・人権教育	生徒	学校で、命の大切さや思いやりの気持ち、社会のルールについての指導をうけている。	道徳教育の充実	全校 	全校 	R7 	A 【R6】 3.46 ↓ 【R7】 3.58	◆各学年道徳教育担当者が中心となり、学年生徒の実態に即した教材の選定・開発に取り組み、心を育む教育活動を展開した。タブレット端末を活用した授業では、自分の意見をしっかりと出してグループで交流ができた。 ◆「道徳」授業参観を実施し、保護者とともに学校運営協議会のメンバーも授業を公開した。(10月29日) ◆12月の真野中人権週間に合わせ、全学年で人権学習をおこなっている。今年度は、全学年で外部から講師を招聘し、講話を実施した。(1年生「障がいのある人」、2年生「LGBTQ」、3年生「外国人差別」「命の学習」)各学年ともに生命・人権尊重・多様性等についての学習を深めた。	A	
	保護者	学校で、命の大切さや思いやりの気持ち、社会のルールについて適切な指導をしている。		3年 	3年 	R6 				
	教職員	命の大切さや思いやりの気持ち、社会のルールについて適切な指導ができている。		2年 	2年 	R5 				
3 体験活動	生徒	学校は、いろいろな学習、体験活動を通して、友達と協働しながら活動を進めるすばらしさや、自主性や表現力を育てようとしていると思う。	協働的な学び	全校 	全校 	R7 	A 【R6】 3.50 ↓ 【R7】 3.69	◆ふるさと体験学習・校外学習・修学旅行・職場体験学習等を実施した。校外学習や修学旅行では、生徒自らが課題設定をする探究的な学習をおこなっており、生徒はより意欲的に取り組むことができた。 ◆学習のまとめとして、タブレット端末を活用して他者に対してプレゼンテーションする機会を設けている。他学年、保護者、事業所の方にも公開することで、情報発信の力を伸ばすことにも繋がっている。	A	
	保護者	学校は、いろいろな学習、体験活動を通して協働する体験、自主性や表現力、豊かな心を育てようとしている。		3年 	3年 	R6 				
	教職員	いろいろな学習、体験活動を通して協働する体験、自主性や表現力、豊かな心を育てようとしている。		2年 	2年 	R5 				
4 教育相談	生徒	勉強や進路、友だちのことなどについて気軽に先生に相談できる。		全校 	全校 	R7 	A 【R6】 3.23 ↓ 【R7】 3.50	◆学期ごとに教育相談旬間を設定し、学級担任を中心に生徒全員との相談機会を設け、生徒と向き合う時間を大切にした。また、日頃から生徒とコミュニケーションを意識的にとり、気軽に相談できる関係の構築に努めた。一方で、日程の設定に工夫が必要である。 ◆毎日の生活ノートのやりとりや定期的なアンケートを通して、生徒の悩みに気づき、早期にアプローチできるように取り組んだ。また、必要に応じてスクールカウンセラーなどの関係機関との連携を図ることができた。 ★昨年度より運用を始めた「ほっとルーム」は、今年度は毎日開室した。教室での活動が難しい生徒が登校できる居場所となっている。	A ・自己評価の数値が上がった要因は何か？ →日頃から相談機会を設けていること、ほっとルームの運用で登校しにくい生徒の居場所ができたことなどが挙げられる	
	保護者	学校は、勉強や進路、友だちのことなどについて、子どもの相談に気軽に応じている。		3年 	3年 	R6 				
	教職員	勉強や進路、友だちのことなどについての生徒の相談に快く応じ、適切なアドバイスができている。		2年 	2年 	R5 				
5 学校満足度	生徒	全般的には、楽しく学校生活を送っている。	学校満足度	全校 	全校 	R7 	A 【R6】 3.63 ↓ 【R7】 3.69	◆生徒に対する質問項目「楽しく学校生活を送っている」に対する肯定的な評価(そう思う・どちらかといえばそう思う)は、どの学年も90%を超え、全校生徒の94%が肯定的に回答している。また、保護者の肯定回答は92%である。 ◆3か年の経年変化を見ると、学年が上がるほど肯定意見が高まる傾向があり、教育活動に対する理解が進んでいくと考えられる。 ★今後は、否定的な回答をした生徒の要因を探り、生徒との良好な関係を築きながら、さらにきめ細かな指導に力を注ぎ、より魅力ある学校づくりを行っていく必要がある。	A	
	保護者	子どもは、学校生活におおむね満足している。		3年 	3年 	R6 				
	教職員	生徒が楽しく、いきいきと学校生活を送ることができるように学校、学年、学級経営等を進めている。		2年 	2年 	R5 				

令和7〔2025〕年度

学校評価書

大津市立真野中学校

項目		評価の観点 ※網掛けの項目は、大津市共通項目	市教委 学校評価 表との 関連	ア ン ケ ー ト		自 己 評 価		学校関係者評価	今後の改善 に向けて
				データ 【左】 ① そう思う ② どちらかというと思う ③ どちらかというと思わない ④ そう思わない 【右】			評価		
				生 徒	保 護 者	教 職 員		本年度の取組と分析	
豊かな心を育む教育	6 特別活動	生徒	体育大会や文化祭等の学校行事、生徒会活動、学級会活動に積極的に参加している。	全校 	全校 	R7 	A	◆真野フェスタ(文化の部・体育の部)の取組を通して、学級・学年への所属感を高め、団結・協力を深めることができた。 ◆生徒会や学年行事の実行委員会等、生徒が主体になり企画・運営する機会を設けることが、生徒自身の参加意欲、達成感につながっていると考えられる。	A
		保護者	子どもは、体育大会や文化祭等の学校行事、生徒会活動、学級会活動などに積極的に参加していると思う。	3年 	3年 	R6 	【R6】3.63		
		教職員	体育大会や文化祭等の学校行事、生徒会活動、学級会活動に生徒が積極的に参加できるように工夫している。	2年 	2年 	R5 	【R7】3.73		
体力づくり	7	生徒	規律正しい日常生活を送り、健康と体力の保持・増進に努めている。	全校 	全校 	R7 	B	◆学校保健の観点から、養護教諭が発行する「保健だより」により健康についての情報発信をこまめに行った。 ◆学校保健委員会と連携し、大学の教授を講師に迎えて、体づくり講座を開催した。 ◆体力作りについては、部活動や体育の授業に熱心に取り組んだ。昼休みには生徒会によるボールの貸し出しを利用し、多くの生徒がグラウンドに出て元気に活動する姿が見られた。また、駅伝メンバーに多くの生徒が立候補し、放課後の練習にチーム丸となって熱心に取り組み、男女ともに県大会出場を果たす活躍が見られた。	B
		保護者	子どもは、節度ある日常生活を送り、健康と体力の保持・増進に努めている。	3年 	3年 	R6 	【R6】3.50		
		教職員	節度ある日常生活をおくり、健康と体力の保持・増進に生徒が努めるよう心がけている。	2年 	2年 	R5 	【R7】3.46		
学習指導	8	生徒	全般的には、学校の授業は、わかりやすい。	全校 	全校 	R7 	A	◆「学校の授業はわかりやすい」と肯定的に回答した生徒は86%、例年学年が上がるごとに数値が高くなる傾向がある。一方、保護者のアンケートでは73%と昨年より向上したものの、生徒回答との乖離がある。 ◆校内研究では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、授業改善に取り組んでいる。相互の授業参観や先進校視察を通して、教員の授業を見る目をなお一層磨き、さらに「わかりやすい授業」づくりに努めたい。また、保護者の理解を広げるために、授業参観や情報発信を積極的に進めていきたい。	A
		保護者	子どもは、全般的に学校の授業がわかりやすいと言っている。	3年 	3年 	R6 	【R6】3.75		
		教職員	わかりやすく意欲的に生徒が授業に取り組むための工夫をしている。	2年 	2年 	R5 	【R7】3.62		
学力向上に向けた取り組み	9 評価	生徒	通知表を見れば、自分の学習の状況がよくわかり、評価には納得できる。	全校 	全校 	R7 	A	◆新しい学力観にもとづく「学習評価」について、教職員が指導と評価の一体化を意識し、適切な評価について研修を進めている。 ◆通知表(学習評価)に対する生徒・保護者の否定的な見方は少なかった。 ★通知表には、定期テストの点数だけでなく日々の主体的に学ぶ態度や課題に取り組んだ内容が反映されていることの周知が不十分である。次年度も年度当初に各教科でシラバスを作成し、懇談会等を通して生徒の様子を伝える等、保護者に周知できるように情報を提供していく。	A
		保護者	通知表では、子どもの学習の状況が適切に評価され、学習状況や学校生活がよく分かる。	3年 	3年 	R6 	【R6】3.33		
		教職員	生徒の学習の状況を通知表等を通して、生徒や保護者がわかりやすく、納得いくように評価できている。	2年 	2年 	R5 	【R7】3.58		
学習習慣	10	生徒	宿題や課題をしっかりとやるなど、家庭学習の習慣が身についている。	全校 	全校 	R7 	B	◆全国学力・学習状況調査(3年生)からは、家庭で宿題や予習・復習を計画的・自主的に進められない生徒は少なくない。その一因として、スマホやゲームを利用する時間が長いことが挙げられる。テスト前の質問・補充教室(まのまるっと教室)だけでなく、各教科で単元テストや小テストを実施するなど、生徒が日頃から主体的に学習に取り組む習慣づけを図りたい。 ★中学校卒業後の見通しをもてるように系統的なキャリア教育を行い、将来の目標の設定と主体的に学ぶ態度の育成につなげていきたい。 ★生徒が自発的に定期的な学習を進める力を付けさせたい。それに向けて、地域や保護者との連携を図りたい。	B
		保護者	学校は、宿題や課題などで、学習習慣を身につけさせ、家庭学習に取り組めるようにしている。	3年 	3年 	R6 	【R6】2.88		
		教職員	学習習慣を身につけさせ、家庭学習に取り組めるように、宿題や課題を適切に出している。	2年 	2年 	R5 	【R7】3.15		
読書習慣	11	生徒	学校で朝読書に取り組むことで、普段から読書をする習慣が身についている。	全校 			B	◆全国学力・学習状況調査(3年生)から、日頃から読書に親しんでいる生徒の数値が低いことが本校の課題であった。今年度も、年4回の朝読書週間を設け、各2週間ずつ取り組んだが、生徒アンケートで「朝読書が本を読む習慣につながる」と回答した生徒は49%であった。(昨年56%)次年度は、読書に対する工夫した取組が必要である。 ◆生徒会図書委員会では、読書の啓発活動(学級文庫の設置、ポップコンテスト)を実施し、読書の大切な意義を伝える場面をつくることができた。また、図書室の環境が整備されたこともあり、昼休みに図書室を利用する生徒数は一日平均20名弱である。	B
		保護者							
		教職員							

学校教育評価表（小・中学校）

学校名

大津市立 真野中学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目	評 価 の 観 点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	3	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	3		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	3	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	3		
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	3		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	3		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2		
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	2	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	3		
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	   
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	3	   
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	3		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3
-------	----	------------	---	---

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.29
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.28

* 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。

* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。